

平成23年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	国際連合婦人開発基金(UNIFEM)拠出金(任意拠出金)		担当部局	総合外交政策局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	昭和54年度開始		担当課室	人権人道課		課長 阿部 康次		
会計区分	一般会計		施策名	- 1 国際機関を通じた政務及び安全保障分野に係る国際貢献				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第3項		関係する計画、通知等	第36回国際連合総会決議36/129 第39回国際連合総会決議39/125				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	1. 女性の人権、政治参加、経済的安定の促進に資する革新的な事業及び戦略に対し、財政的・技術的支援を与える。 2. 男女平等等の促進のため、国連の機関やNGO等と協力しつつ、女性に関する問題と関心事を、国家的・地域的・世界的課題に結びつけ、支援活動を調整する。 3. ジェンダー主流化と女性のエンパワーメント戦略に関する専門的知識の提供を行う。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	国際連合婦人開発基金(UNIFEM)が、女性の地位向上のために行っている下記活動等に対する貢献。 1. 開発途上国の開発過程のすべての局面への女性の完全な参加を確保するため、関連する活動に対する資金及び技術援助。 2. 特に、後発、内陸、島嶼開発途上国における開発への女性の参加を促進するための活動及び農村女性や都市貧困層の女性の社会における役割の発揮及び利益の享受を可能にする事業等への援助の重点的な実施。 3. 女性に対する暴力や人身取引に関するプロジェクトへの援助。							
実施方法	直接実施	業務委託等	補助	貸付	その他			
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
		当初予算	73	67	47	40	80	
		補正予算	-	-	423	-		
		繰越し等	-	-	-	-		
	計	73	67	470	40	80		
	執行額	73	67	470				
執行率(%)	100%	100%	100%					
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(29年度)	
	(成果目標)各国におけるジェンダー平等促進と女性の地位向上。 (成果実績)国会議員に占める女性の割合。 (なお、目標値は、UN Women(UNIFEMの後継機関)の支援対象国における目標数値。)			成果実績	%	18%	19%	19%
			達成度	%	60%	63%	63%	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込(UN Womenとして)	
	執行理事会回数			活動実績(当初見込み)	回	3	3	3
単位当たりコスト	ジェンダー主流化と女性のエンパワーメントのための諸活動を行うUNIFEMへの拠出金であり、単位当たりコストを示すことは困難である。		算出根拠					
平成23・24年度予算内訳 (単位:千円)	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	拠出金	44,296	79,532	拠出額増額				
	計	44,296	79,532					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・状況・予算の		広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	事業継続中であるプロジェクトや、基金を運営していく上での必要経費については、翌年以降、多年度で実施されるプロジェクトに留保しておく必要がある。また、各ドナーからの拠出金額は一定せず、振込時期が明らかでないため、年初の時点で相当程度の資金を確保しておくことが不可欠。
		国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
		不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目・		支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
		単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績		他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	UNIFEM予算については、UNDP/UNFPA執行理事会にて定期的に議論が行われている。
		適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
		活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
	－	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	支出先・使途の把握水準・状況については、毎年提出される報告書により確認を行っている。UNIFEM予算については、UNDP/UNFPA執行理事会にて定期的に議論が行われており、引き続き事業実施状況の適切な把握に努める。		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り	－		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
－			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
<p>UNIFEM(我が国は昭和54年度より拠出)を含む国連ジェンダー関係機関が統合され、2011年1月に新たな機関として「ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関(UN Women)」が活動を開始した。なお、同新機関の設立に当たりUNIFEMは解散され、資産等は新機関に移行された。</p> <p>なお、我が国は、平成22年度補正予算で450万ドルのノンコア拠出を行ったが、UN Women側からは、組織運営に関わる経費及びUN Womenの重点活動分野を支援し、組織の安定的運営のために必要不可欠であるコア拠出への拠出が強く求められている。</p>			